

今回は、10月1日にお知らせしました安全対策の全体概要のうち「電源確保対策」についてお知らせします。

東日本大震災直後、東海第二発電所は外部電源（発電所外からの電源）がなくなりましたが、非常用ディーゼル発電機の電源や後日復旧した外部電源からの受電により、原子炉は安全に冷却できました。しかし、すべての電源（外部電源や非常用ディーゼル発電機の電源）がなくなるような緊急時においても、原子炉や使用済燃料プールを冷却するために必要な電源を十分に確保できるよう、大容量高圧電源車を津波の影響を受けない高台（標高21m）に配備しました。さらに、電源の多様化を図るため、多目的に使用可能な低圧電源車も配備しました。また、これらを使った訓練も繰り返し行っており、万一の災害に備えています。

電源確保のための対策強化

大容量高圧電源車5台を高台（標高21m）に配備

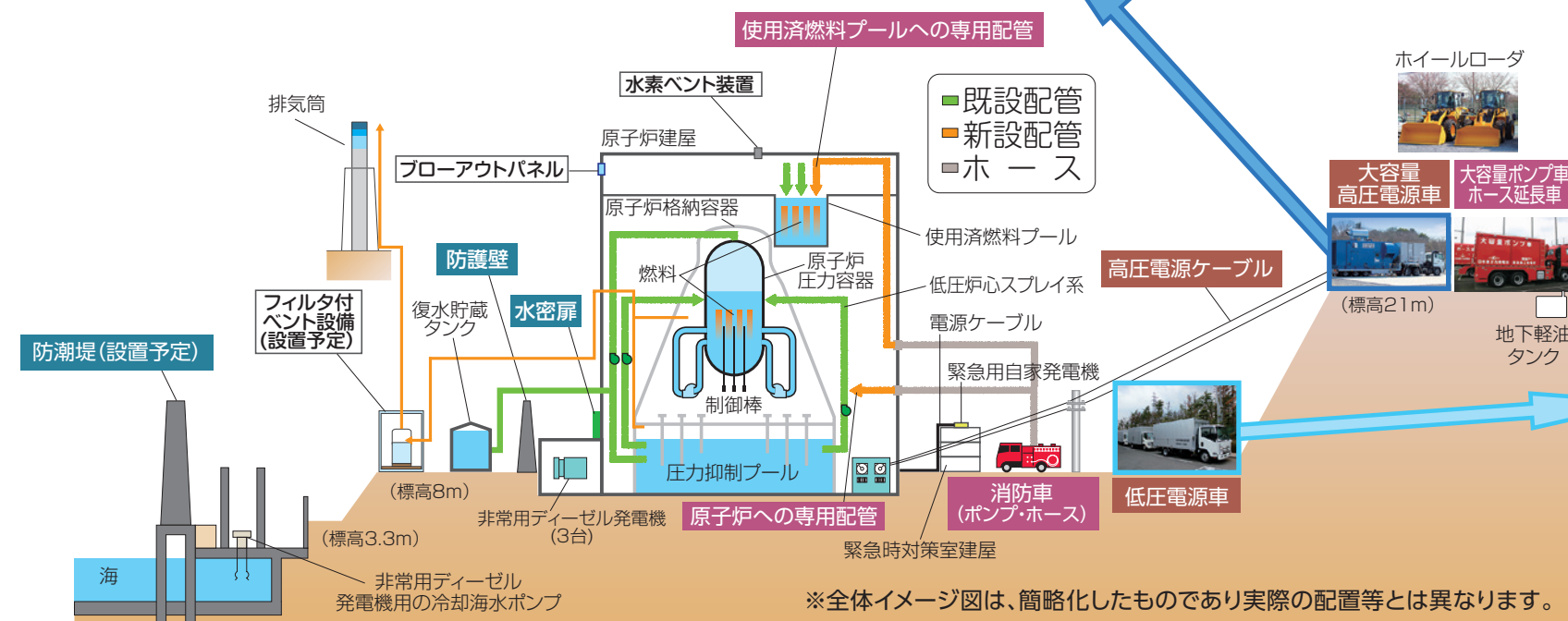


運転操作訓練



低圧電源車4台を発電所構内等に分散配備

東海第二発電所安全対策全体イメージ図



ホイールローダ



低圧電源車ケーブル接続訓練

私たち原電は、東海第二発電所の安全対策に全力で取り組んでいます。

皆様からのご質問にお答えします

～震災後に地域の皆様から寄せられたご質問～

ご質問： 配備した電源車で原子炉を冷却することはできるのですか？

回答： すべての電源（外部電源や非常用ディーゼル発電機の電源）がなくなったとしても、新たに津波の影響を受けない高台に配備した大容量高圧電源車により、原子炉や使用済燃料プールを冷やすために必要な機器へ電気を送ることができるため、冷却を行うことができます。
また、電源車の燃料用地下軽油タンクも新設しました。さらに、電源の多様化を図るため、低圧電源車も発電所構内および津波の影響を受けない高台に分散配備しました。
なお、大容量高圧電源車から高圧電源ケーブルを接続するための電源盤は、津波の影響を受けないよう水密化された建屋内に設置されており、原子炉および使用済燃料プールを冷却する機器を問題なく動かすことができます。

原子炉と使用済燃料プールを問題なく冷やすことが可能



発電所トピックス

各種機器の監視やパトロールを行っています

運転員は、発電所の安全を保つための機器の監視や定期的な作動確認など、24時間体制で行っています。



発電所の現況

燃料は原子炉から全て取り出され、使用済燃料プールで冷却しています。

東海原子力館（東海テラパーク）のお知らせ

東海テラパークでは、本紙でご紹介した安全対策や訓練の様などを、各種パネルやビデオでご覧いただくことができますので、ぜひお越しください。



展示物のご案内

*地域の方々の作品を展示しています

- 9月13日～11月30日
「四季を彩る布小物 秋」
- 11月10日～30日
押し花「花暦」展

～どなたでもご覧いただけます～

東海テラパーク

所在地 那珂郡東海村白方1-1
電話 029-287-1252
開館時間 9時から16時30分
(年末年始を除き毎日開館)

お問い合わせ先
土日祝日を除く 9時～17時

日本原子力発電株式会社

茨城総合事務所 茨城県水戸市笠原町978-25 TEL:029-301-1511
東海事務所 茨城県那珂郡東海村白方1-1 TEL:029-287-1250

当社ホームページ
<http://www.japc.co.jp/>